



9月14日、鳥羽商工会議所女性部により市民体育館周辺の花壇に花植えが行われました。この花は三重とわか国体の開催に向けた「とわか運動」の一環として、飾花を行うために種から育てていました。

会議所女性部の山下貞子さんは「国体が中止になり残念だが、体育館周辺が華やかになることでみなさんに見ていただきたい」と話してくれました。

市民体育館に花を植えました



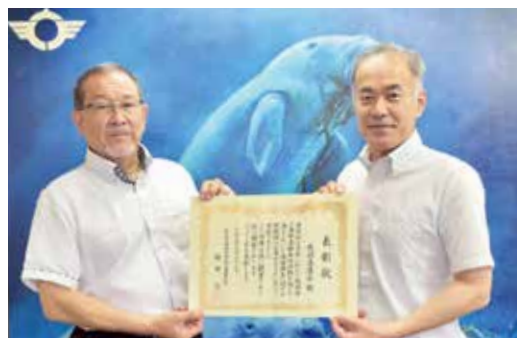
8月31日、海女小屋はちまんかまどを運営する有限会社兵吉屋から、市のアワビ種苗放流事業に10万円を寄付していただきました。市では持続的な水産資源の利用を行うため、種苗放流を行っており水産資源の保護・育成に取り組んできました。同社の野村一弘社長は「厳しい状況が続いていますが、海女の職を守るため今年も寄付をしたい」と思いを話し、中村市長は「鳥羽市のキラコンテツである海女漁における資源管理のために活用させていただきます」と感謝を述べました。

アワビの種苗放流事業に寄付をいただきました



小浜町に新設された鳥羽市水産研究所のPRツールとして、鳥羽海藻カードを作成しました。鳥羽の海には100種類以上の海藻が生息していますが、その中から30種類をピックアップし、「磯でも使える携帯型図鑑」としてまとめています。鳥羽の子どもたちが鳥羽の海や生き物により関心を持ってもらえるよう市内小中学校への設置を予定しています。

鳥羽海藻カードを小中学校へ配布します



8月12日、鳥羽清港会が国土交通省海事関係功労者（海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動）表彰を受賞したことを中村市長に報告しました。吉川勝也会長は「清港会の活動は鳥羽市の誇りだと思っている。今年はコロナ禍で海の大掃除はできないが、環境を整えばまたやりたい」と話し、中村市長は「海と共に生きる鳥羽にとって非常に価値のあること。ぜひこれからも続けていただきたい」とこたえました。

鳥羽清港会が功労者表彰を受けました